

# SECOMEDIC NEWS

医療法人社団誠馨会 セコメディック病院 総合サポートセンター発行  
〒274-0053 千葉県船橋市豊富町 696-1 ☎047-457-9900(代)

皆さまこんにちは。セコメディック病院総合サポートセンターです。

節分の季節になりました。

節分といえば豆まきですね！

「鬼は外、福は内」のかけ声が定番ですが、成田山新勝寺のように鬼神様を奉っている関係で「福は内」のみの場所もあるそうですよ。

今年はそんな違いを探しながら節分を過ごしてみるのもいいかもしれませんですね。

## 腰椎椎間板ヘルニアについて

腰痛を引き起こす多くの疾患群の中で、腰椎椎間板ヘルニアは患者さんの数も多く、また病気の原因がはっきりしている疾患の一つです。

ヘルニア(Hernia)は、ラテン語で「臓器の一部があるべき腔から逸脱した状態」を意味する言葉です。

椎間板は背骨の骨と骨をつなぐ軟骨です。

椎間板ヘルニアとは、椎間板の中にある髓核というどろっとしたゼラチン状のものが背骨に飛び出してすぐ近くを通っている神経を圧迫し、腰痛や(主に片側の)下肢の痛み、しびれを引き起こす疾患です。

人口の約1%が罹患し、20~40歳代で男性に多いと報告されています。

診断は診察、レントゲン、MRI等によりなされます。治療は保存療法と手術療法がありますが、原則は保存療法です。大多数の患者さんは手術しなくても腰の痛み、足の痛みが良くなり、普通の生活に戻ることができます。保存療法には安静、薬剤(神經障害性治療薬など)、コルセット、ブロック療法などがあります。

保存治療はどれも、はみ出したヘルニアそのものを小さくする方法ではなく、あくまで、症状を軽くすることができる方法しかありません。

腰椎椎間板ヘルニアは時間経過とともに症状が軽くなることが多いので、症状の強い期間、保存療法で苦痛を軽くして自然の治癒を待つことになります。

しかし、数か月経過しても痛みが全く良くなかったり、むしろ悪くなった場合、または最初よりは良くなっても仕事に支障をきたすような場合には手術を受けることを考えて専門医と相談してみる必要があります。

手術療法は、はみ出したヘルニアそのものを取り出すことにより痛みを即座に柔らげることができ、最近では顕微鏡、内視鏡を使用して行う手術もよく行われています。

手術中の出血はほとんどなく、手術後1~3日で歩行できます。約90%以上の患者さんに良好な成績をおさめていますが、手術の前からしびれ感や感覚の鋭い場所があったり、足の筋力が弱くなった場合にはそれらが残ってしまう可能性があります。

どのような治療をするかは、各個人の痛みや辛さ、仕事、スポーツ復帰などの時期を十分考慮して専門医と相談し、その上でご自分で結論を出すことをお勧めします。

セコメディック病院 整形外科 岩本 桢澄

## 医療講演会を行いました！

2020年1月24日(金)にふなばしメグスパ(船橋市北部清掃工場余熱利用施設)にて、整形外科岩本桢澄医師による医療講演会を行いました。

内容は「腰部脊柱管狭窄症について」。

実際に模型を使用して、どういう動きをしているのか確認しながら腰部脊柱管狭窄症について講演されました。

また医療講演会の前には、「介護予防と転倒～運動機能向上に向けて～」という内容で、当院のリハビリテーション部の職員による講義と運動を行いました。

多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。またお待ちしております！



## 一次脳卒中センター(PSC)に認定されました

この度、当院は日本脳卒中学会より一次脳卒中センター(Primary Stroke Center : PSC)に認定されました。

期間は、2019年9月1日~2021年3月31日までです。

### ●一次脳卒中センター(PSC)の認定要件●

- (1) 地域医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬送後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法を含む)を開始できる。
- (2) 頭部CTまたはMRI検査、一般血液検査と凝固学的検査、心電図検査が施行可能である。
- (3) 脳卒中ユニット(SU)を有する。
- (4) 脳卒中診療に従事する医師(専従でなくてもよい、前期研修医を除く)が24H/7D体制で勤務している。
- (5) 脳卒中専門医1名以上の常勤医がいる。
- (6) 脳神経外科的処置が必要な場合、迅速に脳神経外科が対応できる体制がある。
- (7) 機械的血栓回収療法が実施できることが望ましい。実施できない場合には、血栓回収脳卒中センターや包括的脳卒中センターとの間で、機械的血栓回収療法の適応となる患者の緊急輸送に関する手順書を有する。
- (8) 定期的な臨床指標取得による脳卒中医療の質をコントロールする。